

豪州準備銀行は緊急利下げと量的緩和策の導入を決定

- RBAは緊急会合で0.25%の利下げ決定。長期にわたる政策金利据え置きを示唆するフォワード・ガイダンスを公表。
- RBAは国債買い入れによる量的緩和策を開始。豪3年国債利回りを目標にイールドカーブをコントロールする方針。
- ロウRBA総裁は国債市場が落ち着くには一定の時間がかかるとの見方。豪ドル相場への為替介入の可能性も示唆。
- RBAと豪政府は1,050億豪ドル規模の中小企業向け貸出支援策を公表。金融監督庁も自己資本規制緩和で支援。

RBAは緊急利下げと量的緩和策の導入を決定

豪州準備銀行(RBA)は3月19日の臨時会合において、新型コロナウイルス対策の金融緩和策を公表しました。RBAの緩和策の要点は以下の3つに集約されます(図1)。

第一に、RBAは政策金利を史上最低の0.25%へ引き下げると同時に、長期にわたる政策金利の据え置きを示唆するフォワード・ガイダンスを公表しました。

第二に、RBAは豪州国債買い入れによる量的緩和策を開始します。足元で投資家による現金確保の動きが加速し、国債利回りの上昇が問題となる中、RBAは豪3年国債利回りを0.25%近辺の水準へ誘導するイールドカーブ・コントロール策を明らかにしました(図2)。

フィリップ・ロウRBA総裁は会見で、足元での豪10年国債利回りの急上昇に関して、イールドカーブ全体にわたる国債買い入れによって国債市場全体が落ち着くには一定の時間がかかるとの見方を示しました。また、ロウ総裁は、為替市場で流動性の懸念が生まれれば、豪ドル相場への為替介入の用意があるとの踏み込んだ発言もしています。

豪州政府と金融当局が協調して貸出支援に動く

第三に、RBAは900億豪ドル規模の中小企業への貸出支援策を公表しました。同時に、豪州政府が小規模銀行やノンバンクに対する150億豪ドルの貸出支援策を明らかにしており、RBAと豪州政府の貸出支援策の総額は1,050億豪ドル(GDP比5.3%、約7兆円*)にのびります。

加えて、豪金融監督庁(APRA)も、貸出拡大を促すため、大手銀行に求める自己資本規制を新型コロナウイルスの影響が続く間は一時的に緩和する方針を示しました。

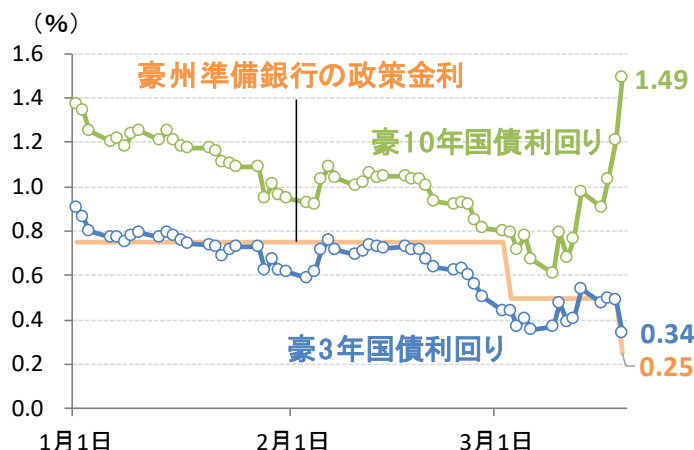
新型コロナウイルスが経済・金融市場に与える影響への懸念が増す中、豪州政府と金融当局(RBA、APRA)が協調して景気支援に動く姿勢が強まっていると言えます。

図1: 豪州準備銀行(RBA)の政策決定の要点

- **【0.25%の利下げを決定(0.50%→0.25%)】** RBAは「完全雇用への進展と物価上昇への確信がなければ、政策金利を引き上げることはない」と長期にわたる政策金利据え置きを示唆するフォワード・ガイダンスを公表。
- **【豪州国債の買い入れによるイールドカーブ・コントロール】** 3年物豪州国債利回りを0.25%近辺に誘導することを政策目標とする。目標達成のため、国債流通市場でイールドカーブ全体にわたって豪州国債および州政府債を購入する。国債買い入れ策は3月20日より開始。
- **【銀行システムに対する中小企業向け貸出支援策】** 銀行はRBAから0.25%の金利で資金調達が可能になる。銀行の調達額の上限は各行の貸出残高の3%まで。銀行は中小企業などへの貸出を増やせば、上限以上の資金調達も可能となる。支援策の総額は最低でも900億豪ドル。

(出所)RBA (注)2020年3月19日の緊急会合における決定内容。

図2: 豪州準備銀行の政策金利と国債利回り



(出所)ブルームバーグ (期間)2020年1月1日～3月19日

(*)レター中の換算レート:1豪ドル=65円